

あめんぼ通信



ホームページアドレス www.aikawasizen.net

この会報の発行費用の一部は、(財)イオン環境財団の助成によるものです。 連絡先：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津6205 TEL 046-284-2

ひろがる ネットワーク

美しいあいかわの自然・里山里地環境を残したい・そんなゆめ・人と人とのつながりで・きっと・かなえられる
新しい会員の紹介 すでに、お忙しい仕事の合間をぬって尾山の調査ボランティアとして御参加のおふたり、
川嶋朋美さん（厚木市鳶尾）と五月女芳子さん（愛川町半原）です。これからどうぞよろしく。

実りの秋の 尾山耕地

9月19日 尾山耕地遠景



竜福寺山門下より尾山耕地を望む。
稲が実って、一面黄色。耕地面積は、約
5.5haとのこと。手前、尾山の土手と
下谷集落の間を中津川が流れています。



水道坂の上より遠望。
手前は下箕輪の水田地帯。
中津川の対岸下流、八菅山の下
に、細長く尾山のの水田地帯。



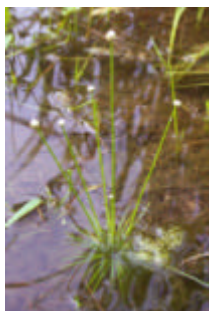
このあたりからの眺めは、
宮ヶ瀬ダム方面まで見渡せ、水田と
八菅山から幣山に連なる山々の景
色も美しく、景勝10選のひとつ。

8月末～10月の尾山耕地 昆虫調査 調査対象種：水生昆虫 モートンイトトンボ コオイムシ タマガムシ

陸生昆虫 オグラヒラタゴミムシ キベルマルクピゴムシ マメハンミョウ

専門研究者 藤田裕（町学芸員） 佐藤誠三（会員） 調査参加者 衛藤佳功 五月女芳子 菅原多美 川嶋朋美 大木悦子

8月末から2回目のコオイムシ・タマガムシの全体調査を開始。9月半ばに水路の水が止まりましたが、その少し前から、すでに水田に水がなくなりはじめました。少し残った水溜りや、全く水のないところでの生息状況を調査。稲が倒れるなどで、調査不能の場所も多く、秋の長雨、台風等もありなかなかすみませんでした。とはいえ、冬を前にしたこの季節、おもしろい昆虫達のくらしぶりを観ることが出来ました。



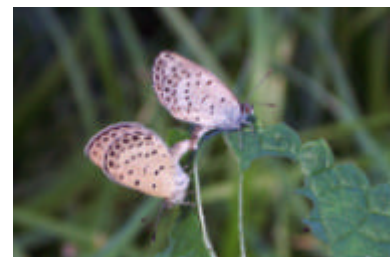
8/30

ホシクサ（星草）

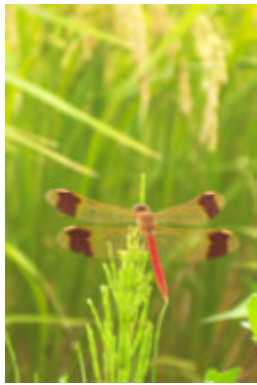


9/1

コオイムシ・タマガムシ調査



9/10



いろいろな赤とんぼたち

羽の先端が黒褐色コノシメトンボ
 羽根に茶色の帯 ミヤマアカネ
 額に黒い山型眉 マユタテアカネ
 羽は透明・胸は茶色 アキアカネ(この他にも ノシメトンボ・リスアカネ・ウスバキトンボ・ナツアカネなど)

1/20



9/11



イトアメンボ(左)成虫 と(右)まだ体が草色の幼虫

ミズカマキリ



コオイムシの成虫

ヤゴを捕食するコオイムシの幼虫

そろそろ水の少なくなってきた水田ですが、コオイムシは元気です。水のある水田のふちをすくった時のこと、網に入ったコオイムシの幼虫は、ヤゴを見つけるとすばやく捕まえて体液を吸いはじめました。じーっと5分以上、そのまま身じろぎもせず採食。たくさんいるヤゴがごちそう



9/14

真っ白なコオイムシは、脱皮したばかりの成虫のようです。この日の前後に、白い4個体を確認。

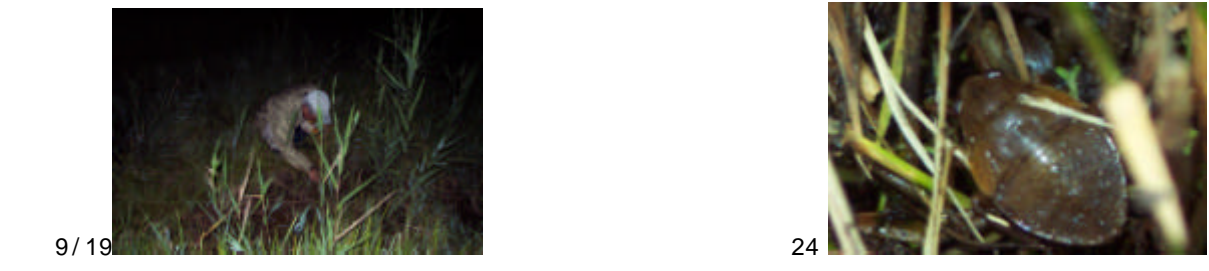


9/14

9/18

クモの巣にかかったハネナガイナゴ

水がひいた土の上にタマガムシやヤゴ(左上)



9/19

24

19日・夕暮れからのゴミムシ調査 ・ 20日イトアメンボ調査補助活動 ・ 草の根元にコオイムシの幼虫



26

10/3

稲刈りの始まった頃、10月2日の台風で架け干しの稲が皆倒れてしまいました。中津小のあでやかな“かかし”たち。



10/6

14

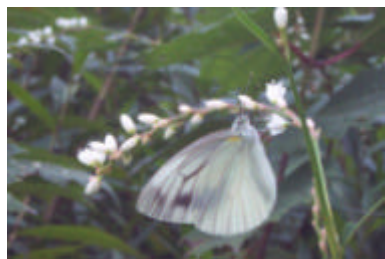
10月6日「桂川・相模川の未来」に参加：相模川・神沢の河川敷を歩き、植物観察。カワラハハコが咲いていました。

10月14日 仏果山山麓にて、佐藤さんのサンコウチョウの生息環境調査を見学。サンコウチョウは、飛びながら餌を捕るので、生息地の木と木の間隔や葉の茂る状態などを調査するのだそうです。来年

ニュース おめでとう!

昨年夏、神奈川の昆虫図鑑の写真を見て、バケツと網を持ち横浜から一人で尾山を訪ねてきた高柳健太さん(中学3年生)第46回日本学生科学賞県作品展に出展した「獅子ヶ谷市民の森周辺の昆虫と小動物」が、特別賞10点:中央審査出品作品の中に選ばれ、横浜市教委賞を受賞。うれしいお知らせと共に、「また尾山に行きます。」と、元気な電話をいただきました。

情報掲示板



11月9日(土)テンの調査 集合:午前10時 愛川町半原バス停留所 (詳細別紙ページ)

11月16日(土)愛川町方面植物観察会 集合:午前9時半 愛川聖苑駐車場入り口 主催 厚木植物会

11月16日(土)講演 カワラノギクの生態と保全 倉本 宣(明治大学農学部助教授)

時間 13:30~16:30 主催 カワラノギクを守る会

場所 県央地区農政事務所講堂(旧労働センター、厚木水引 TEL 046-296-7511)

趣旨:相模川・多摩川・鬼怒川の三河川で数十万本の繁殖が認められていたカワラノギクは、現在あわせて500本以下にまで減り、絶滅が危惧されています。河川の治水がすすみ水量の調整が行き届き河川敷に石ころ川原が減少してきたことなど、その原因はいろいろと考えられていますが、根本的な原因の究明や解決には至っていません。相模川では、このままでは絶滅してしまうと危機感を持った市民が、97年に「カワラノギクを守る会」を発足させました。そして相模大堰(海老名市社家)の河川敷を借りてカワラノギクを約500本植えました。更に海老名市立小、中学校や農業高校も学校の校庭に植えたり、近くの企業も加わって河川敷での除草作業など、協力が始まっています。今年是对岸の厚木市で、中学校や老人会が参加して河川敷の公園などにカワラノギクを植え、この秋には開花を迎える株も出てきました。また上流の城山町では文教委員会がカワラノギク自生地近くの小学校を総合学習研究指定校にして、保護活動に取り組み始めました。

しかし一方で、指標植物であるカワラノギクを植える事に批判や抵抗のある研究者や自然保護団体もいます。そこでカワラノギクの生態を学び保全することに意義があるのか、植えるとしたら、どういうところに注意するのかなど、多くの方々の意見を聞く機会を持ちたいと思います。当日は三川合流点の河川敷に植えられたカワラノギクが満開を迎えていますので、そちらもご覧になりながら、ぜひ厚木での学習会にご参加ください。心よりお待ちしております。

見学記:11月2-3日 東京農大 収穫祭 (厚木市船子)

昆虫生態研究室の方々は、厚木市の調査に連携して、鳴く虫の調査を行っています。展示で、江戸時代の虫売り屋台の再現やトンボの卵や生まれたばかりの幼虫などを見た後、愛川町で4月から9月まで各週2日、環境条件の違うところ5ヶ所にトラップをかけて、ゴミムシを中心に調査を行った3年生の方のお話を伺いました。バスと徒歩で続けた熱意に圧倒され、これからの同定作業等の大変さを想いながら、私たちにできることを思い浮かべずにいました。愛川町を選んだきっかけがインターネット情報掲載ページ(当会活動関連を多く掲載)ときいて、なんだかまっとけないな~と思ってしまったのですが・・・(大木悦子)

10月26日 荻野公民館上荻野分室での学習会と情報交換会報告は、N08に掲載予定。

あいかわ自然ネットワーク 展示・11月7~18日 町文化会館ロビー:あいかわの自然写真展

11月定例会 11月17日(日)午後2~5時 愛川町中津公民館1階 (午前中はごみの工夫と生活展にて展示)

<編集後記>

先日、学校のプール掃除があり、六年の息子は「今年は何がいるかな?」とタモとバケツを手にいそいそと登校。ところが会えたのはマツモムシだけ。がっかりした様子で帰って来ました。みんなどこへ行ってしまったんでしょう?暮らしにくい世の中になったものです。(久)

有線放送で聴いた中津小の稲刈りインタビュー:先生のお話「田植え後の自然観察の折、水田はいきものたちの棲む大切な所と、町学芸員の方に教えてもらった」と。オオミズアオを持った先生と子供たちの笑顔を思い出しました。(え)

<あいかわ自然ネットワーク会報>

あめんぼ通信 7 発行日 2002年10月25日

会費

- ・振替口座名 : 名称 あいかわ自然ネットワーク
- ・口座番号 : 00210-1-69500
- ・会費 : 賛助会員(会報・案内送付)1,500円
会員2,000円 家族会員3,000円

申し込み・問い合わせ:あいかわ自然ネットワーク事務局 大木悦子
〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6205
TEL 046-284-2121 e-mail npo@aikawasizen.net

<編集>

編集 吉川久美子 大木悦子